

地主会役員と若手の会との意見交換会が行われました

去る2月29日(金)に、宜野湾市社会福祉協議会において、地主会役員・評議委員等と若手の会との意見交換会(宜野湾市軍用地等地主会主催)が行われました。今回はオブザーバーとして、沖縄国際大学講師の上江洲純子氏と沖縄県基地対策課職員が出席されました。

意見交換会では、若手の会より今年度の活動報告と2つの提言書の発表が行われ、その後の意見交換では、以下のような意見があげられました。



■意見交換の主な内容

＜地主会役員からの意見＞

◆今の宜野湾市は通過地点となっている状況であるため、例えば公園内に沖縄料理を教えるようなところをつくったり、琉球舞踊のホールなどつくったりして、那覇等との差別化を図り、特徴付けを行うことが必要である。交通面では、地下鉄をつくることも考える必要があると思う。モノレールは何十年もかけて道路特定財源を使ってつくったという例があるので、それも一つの方法であると思う。

◆発表された提言書はたいへんすばらしい内容だと思う。とにかく基地が返還されたときに慌てるのではなく、こういうものをつくろうという考えを決定しておくことが大切であると思うし、そのために我々がこうして集まっている。自分たちの幼いころは車や電話がなくても生活できたが、今は車や携帯電話がないと生活できない時代になっている。さらに50年後にはどのようなになっているかわからないが、想像はできるはずである。宜野湾市をどのようなまちにしていくなかで大切であり、我々にはその責任がある。

◆役員と若手の会の意見交換のような場合は、今後積極的に開催していくことが大切だと思う。若手の会については、これまで以上に会員数と会の回数を増やして、跡地利用に向けて準備していったほしい。

◆若手の会の取り組みは長丁場になると思うので、何が一番ためになるのかを考え、様々な資料を取り寄せて引き続き検討していったほしい。

＜若手の会からの意見＞

◆若手の会のメンバーは、今では17名程度が安定的に集まるようになってきているが、常時20名程度は参加して、活発に議論できる会にしていきたいと思っている。常に組織強化していくことを念頭に置いており、地主会の役員の皆さんにも協力をお願いしたい。

第3回関係地権者等の意向醸成・活動推進調査検討委員会を開催しました



去る3月11日(火)に、宜野湾市農協会館2階ホールにおいて、平成19年度第3回関係地権者等の意向醸成・活動推進調査検討委員会を開催しました。

今回は、今年度行われた各種活動成果の総括とともに、合意形成活動における今後の課題、次年度以降の活動計画についての議論がなされ、次年度以降も引き続き充実した取り組みを行っていくことが確認されました。



第24号

発行 / 宜野湾市役所 基地政策部 基地跡地対策課
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩1-1-1
電話 098-893-4401(直通) Fax 098-892-7022
Eメール kichi01@city.ginowan.okinawa.jp
ホームページ http://www.city.ginowan.okinawa.jp/



若手の会による提言書 特集号！

普天間飛行場跡地利用に向けた取り組みは、県と市により策定された「普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けた行動計画」に基づき、分野別計画に係る調査・検討がスタートしています。

こうした中、今年度から若手の会は、分野別計画の一つである「公園・環境」、「交通」のグループに分かれ、1年を通して活動を進めてきました。その成果がグループごとにそれぞれ1冊の提言書(交通編・公園編)としてまとめられましたので、今号ではその概要を紹介します。

公園・環境グループの提言書は、地権者側の視点から(仮)普天間公園を将来の宜野湾市にどのように活用すべきか、どのような人を対象とした公園であるべきか、具体的な方向性としてどのような展開が考えられるかなど、公園・環境グループのメンバーの(仮)普天間公園に対する想いを出し合い、集約したものです。

交通グループの提言書は、「普天間飛行場の地域性と交通を取り巻く現状」についての議論や、近年、環境にやさしい先進的な交通システムとして注目を集めている富山県富山市LRT(次世代型路面電車)視察会の成果を踏まえて、「公共交通を中心とした域内交通のあり方」についての議論を重ね、現時点での考えとして集約したものです。両分野ともに今後も内容を深めていくといった意味合いのもと、パート1としています。

普天間飛行場跡地利用への私たちの考え
公園編パート1



平成20年2月
普天間飛行場の跡地を考える若手の会 公園・環境グループ

普天間飛行場跡地利用への私たちの考え
交通編パート1



平成20年2月
普天間飛行場の跡地を考える若手の会 交通グループ



公園・環境グループ

提言書の構成(全 29 ページ)

1. はじめに
 2. (仮) 普天間公園検討の流れ
 3. (仮) 普天間公園のあり方
 4. (仮) 普天間公園のイメージ
 5. 私たちの考える (仮) 普天間公園
- 付属資料— 1 はごろも祭りでの市民・県民アンケート関連資料
 付属資料— 2 先進地視察会関連資料
 付属資料— 3 若手の会公園・環境グループの活動経過

■私たちの考える(仮)普天間公園

- ★「平和」をメインテーマに、基地にあるものを保存・活用し、平和の発信地となるような公園としていく (マイナス要素を良い意味で活用する)。
- ★将来的な発展を見据えた施設を取り入れ、様々な側面 (経済、環境など) から宜野湾市の発展に寄与するような公園としていく。
- ★平和をメインテーマとしつつ、その要素を取り入れた「自然・歴史・文化」、「スポーツ・レジャー」、「シンボル」をテーマとした施設等を取り入れ、市民・県民・県外からの観光客等の誰でも魅力を感じる公園としていく。
- ★糸満市の「戦時の平和学習」とは差別化をはかり「戦後の基地との関わりの中での平和学習」の場として修学旅行生も訪れるような公園としていく。また返還記念公園として基地に関する記録を残していく。
- ★既存の自然資源を活用するとともに失われた自然を再生させ、緑を中心とした公園づくりを行い、環境配慮型の公園づくりを行うことで環境学習の場ともなる公園としていく。
- ★鍾乳洞等の自然資源や地域の文化財等の宜野湾市独自の資源を活用した公園としていく。
- ★記念写真の場にもなるような、「普天間飛行場・宜野湾市の歴史や物語」、「平和発信というメッセージ」を感じることができるシンボルを取り入れていく (公園だけでなく宜野湾市・沖縄県のシンボルともなるもの)。
- ★一過性のイベントではなく、常時人が呼べる集客力のある公園としていく (子どもたちが気軽に遊べるレジャー施設、あらゆるイベントの誘致、野球やサッカー等のプロチームが使用できる施設など)。
- ★歩道コースや健康関連施設を設置し、健康・長寿にも意識した公園づくりをしていく。

■若手の会 公園・環境グループの活動経過

平成 19 年 5 月 8 日 (火)	「交通」、「公園・環境」のグループ分けと活動計画について
6 月 12 日 (火)	市民・県民の求める公園のイメージについて
7 月 10 日 (火)	先進地視察会の候補地について (万博記念公園に決定)
8 月 14 日 (火)	観光客が求める公園のイメージについて
9 月 11 日 (火)	宜野湾はごろも祭り市民アンケート成果まとめ、立命館大学生との意見交換
10 月 9 日 (火)	提言書とりまとめ方針について
10 月 11 日 (木)～13 日 (土)	先進地視察会
11 月 13 日 (火)	視察会の成果とりまとめ
12 月 11 日 (火)	公園づくりの方向性について
平成 20 年 1 月 8 日 (火)	提言書 (案) について
2 月 12 日 (火)	提言書 (最終案) について



アンケートの様子 (8.19)



定例会の様子 (9.11)



交通グループ

提言書の構成(全 23 ページ)

1. はじめに
 2. 普天間飛行場跡地の地域性と交通を取り巻く現状
 3. 普天間飛行場跡地における域内交通のあり方
 4. 今後の具体的検討に向けて
- 付属資料— 1 富山市 L R T 視察会関連資料
 付属資料— 2 若手の会交通グループの活動経過

■提言総括

- ◆整備費用等を考慮すると、L R T (次世代型路面電車) などとともに、バス専用道路 (緊急車両の通行は可) の整備を検討することも効果的と考えられる。
- ◆交通面からも普天間飛行場があったという歴史を伝えていく必要がある。(現在のフェンスの位置にバス専用道路等新たな公共交通を導入する等)
- ◆環境にやさしい L R T (次世代型路面電車) や電気バス等の導入による公共交通サービスの向上はもとより、街なかへの自家用車乗り入れ規制や歩くことが楽しいまちづくり方策についても検討していく必要がある。
- ◆見晴らしや観光客の利用を考慮した運行ルートの設定、観光客が楽しめるような工夫等、交通そのものを観光資源としていくが必要である。
- ◆多くのバス停設置や定時性の確保等により一般市民や学生が利用しやすい交通体系を整備し、公共交通を市民の生活の一部にしていく必要がある。このことが自家用自動車利用の抑制に繋がるものと考えられる。
- ◆普天間飛行場跡地から周辺地域への交通を分散、集中させる交通拠点の整備が必要である。また、公共交通機関の乗り継ぎ手段は十分に確保する必要がある。(バス⇄バス、バス⇄モノレール、L R T⇄バス、バス⇄自転車等)
- ◆コストがかかっても、ユニバーサルデザインを考慮した交通環境を実現する必要がある。
- ◆新たな公共交通は、地域住民等の参画により、持続可能なものとし、市民生活の中に定着させていく必要がある。



環境にやさしく、暮らしに活力を与え、住む人・訪れる人が循環する公共交通を実現させよう！

■若手の会 交通グループの活動経過

平成 19 年 5 月 8 日 (火)	「交通」、「公園・環境」のグループ分けと活動計画について
6 月 12 日 (火)	公共交通システムの先進事例について
7 月 10 日 (火)	先進地視察会の候補地について (富山市 LRT に決定)
8 月 14 日 (火)	視察会での確認事項について、提言書とりまとめ方針について
9 月 11 日 (火)	交通の視点から見た普天間飛行場の地域性について、立命館大学生との意見交換
10 月 9 日 (火)	交通の視点から見た普天間飛行場の地域性について
10 月 11 日 (木)～13 日 (土)	先進地視察会
11 月 13 日 (火)	視察会の成果とりまとめ
12 月 11 日 (火)	提言書 (骨子案) について
平成 20 年 1 月 8 日 (火)	提言書 (案) について
2 月 12 日 (火)	提言書 (最終案) について



視察時の講義の様子 (10.12)



定例会の様子 (11.13)